

工事共通構造図改正資料

令和 7 年 10 月

名古屋市緑政土木局

構造図 改正箇所一覧表 (R7.10)

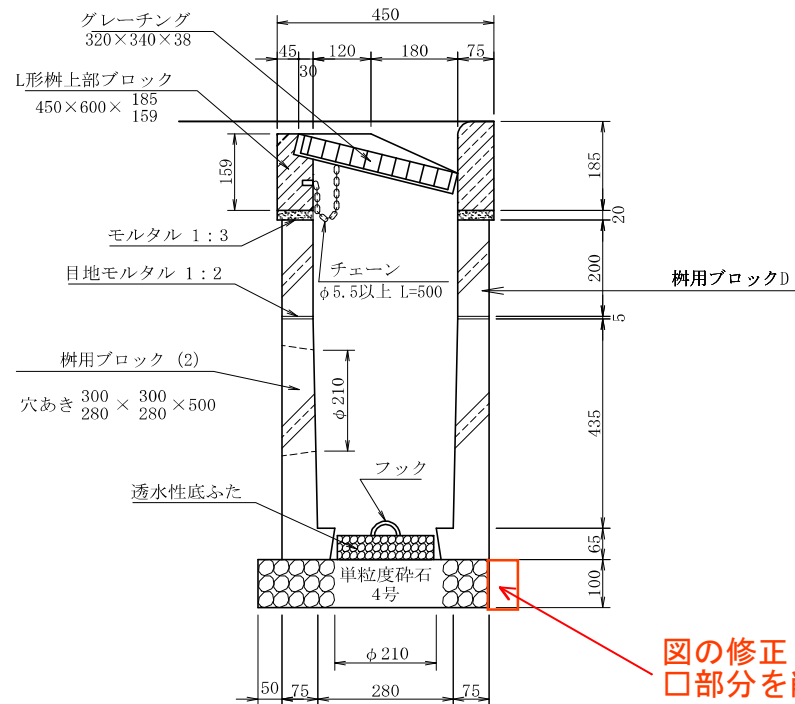
[illegible]

赤字は、改正箇所

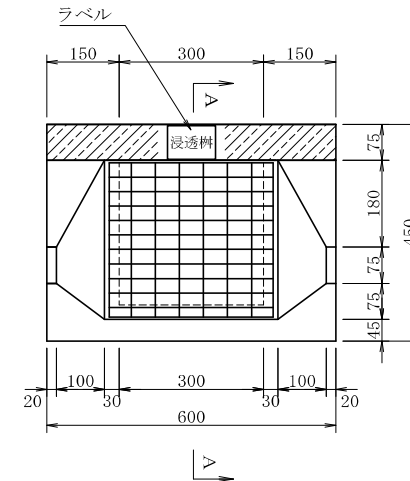
大 分 類	中 分 類	小 分 類	適用年度
100 排 水 工	L 形側溝樹工	C-2, C-3	R7.4

L 形側溝樹工 (浸透用)

A-A 断 面 図



平 面 図



注意事項

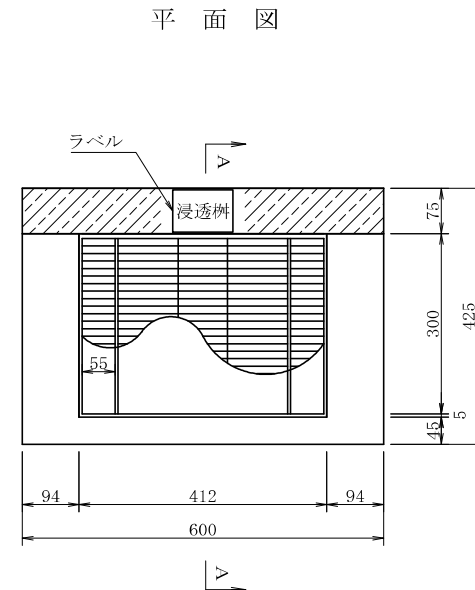
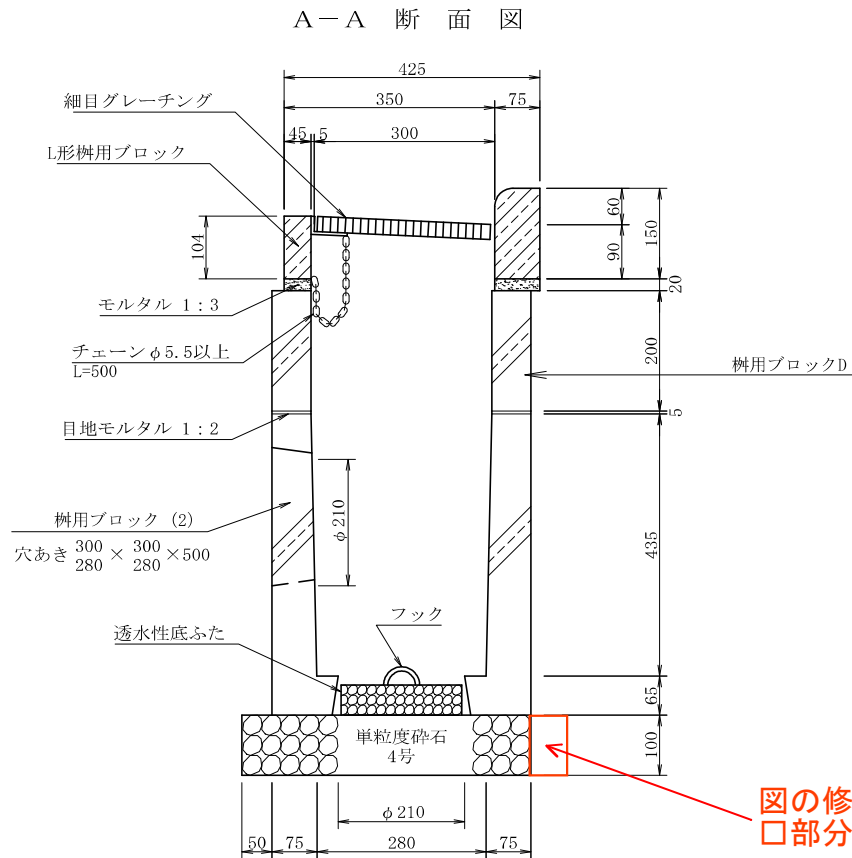
1. 嵩上げ高は20cmを標準とする。
2. グレーチングの材質は、一般構造用圧延鋼材 (SS-400) とし、溶融亜鉛メッキ品とする。
3. グレーチングの主部材の表面部は、ノンスリップ加工処理とする。
4. グレーチングの寸法については、設計荷重を満足し納まり等支障のないものを使用してよいものとする。
5. 受枠はグレーチングがずれることがないようにロの字型とし、4方向に枠を有するものを使用すること。
6. 取付管の位置については、本管等の位置により適宜決めること。但し、樹底より150mm以上上げること。

L 形側溝樹工 (C-2, C-3) 材 料 表

名 称	材 料 表								10ヶ所当り	摘 要
	単粒度碎石 4号 (m ³)	モルタル (m ³)		L形樹上部ブロック (個) 450×600× 185 159	グレーチング T-14用 (組) 本体 320×340×38 受枠 340×360×44	柵用ブロック (個)		透水性底ふた (枚) φ 190, t=50	ラベル (枚) 70×100	
		敷モルタル (1 : 3)	目地モルタル (1 : 2)			(2)穴あき 300×300× 280×500	D 65×300×200 F 65×300×100			
側溝柵工 (C-2)	0.254	0.036	0.005	10	10 (細目)	10	10 (D) 10 (F)	10	10	
側溝柵工 (C-3)	0.254	0.036	0.005	10	10 (並目)	10	10 (D) 10 (F)	10	10	

大 分 類	中 分 類	小 分 類	適用年度
100 排 水 工	L 形側溝柵工	C-5, C-6	R7.4

L 形 側 溝 柵 工 (歩道用・浸透用)



注意事項

1. 嵩上げ高は10cmを標準とする。
2. グレーチングの材質は、一般構造用圧延鋼材 (SS-400) とし、溶融亜鉛メッキ品とする。
3. グレーチングの主部材の表面部は、ノンスリップ加工処理とする。
4. グレーチングの寸法については、設計荷重を満足し納まり等支障のないものを使用してよいものとする。
5. 受枠はグレーチングがずれることがないよう口の字型とし、4方向に枠を有するものを使用すること。
6. 取付管の位置については、本管等の位置により適宜決めること。但し、柵底より150mm以上上げること。

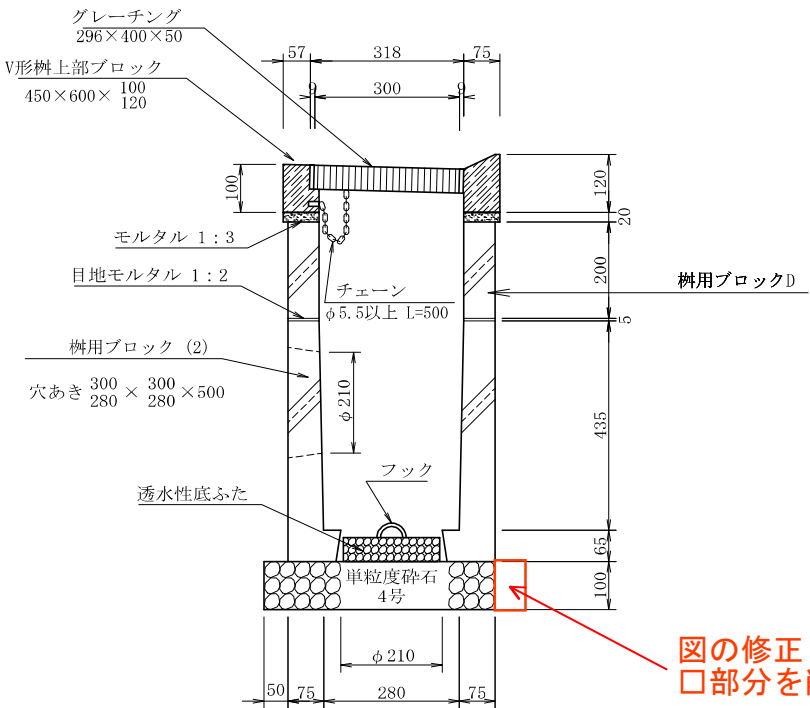
L 形 側 溝 柵 工 (C-5, C-6) 材 料 表

名 称	材 料 表								10ヶ所当り	摘 要	
	単粒度碎石 4号 (m^3)	モルタル (m^3)		L形柵上部ブロック (個) $425 \times 600 \times 150$ 104	グレーチング T-2用 細目(組) 本体 $292 \times 390 \times 25$ 受枠 $310 \times 410 \times 31$	グレーチング T-14用 細目(組) 本体 $290 \times 390 \times 25$ 受枠 $310 \times 410 \times 31$	柵用ブロック (個)		透水性底ふた (枚) $\phi 190, t=50$		ラベル (枚) 70×100
		敷モルタル (1 : 3)	目地モルタル (1 : 2)				(2)穴あき $300 \times 300 \times 280$ $\times 280 \times 500$	D $65 \times 300 \times 200$ F $65 \times 300 \times 100$			
L形側溝柵工(C-5)	0.254	0.019	0.005	10	10	—	10	$\frac{10(\text{D})}{10(\text{F})}$	10	10	
L形側溝柵工(C-6)	0.254	0.019	0.005	10	—	10	10	$\frac{10(\text{D})}{10(\text{F})}$	10	10	

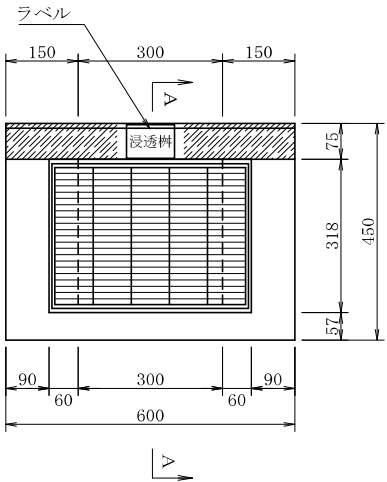
V形側溝柵工(浸透用)

大分類	中分類	小分類	適用年度
100排水工	V形側溝柵工	(B)	R7.4

A-A断面図



平面図



注意事項

1. 嵩上げ高は20cmを標準とする。
2. グレーチングの材質は、一般構造用圧延鋼材(SS-400)とし、溶融亜鉛メッキ品とする。
3. グレーチングの主材の表面部は、ノンスリップ加工処理とする。
4. グレーチングの寸法については、設計荷重を満足し納まり等支障のないものを使用してよいものとする。
受枠はグレーチングがずれることがないようにロの字型とし、4方向に枠を有するものを使用すること。
5. 取付管の位置については、本管等の位置により適宜決めること。但し、柵底より150mm以上上げること。

図の修正
□部分を削除

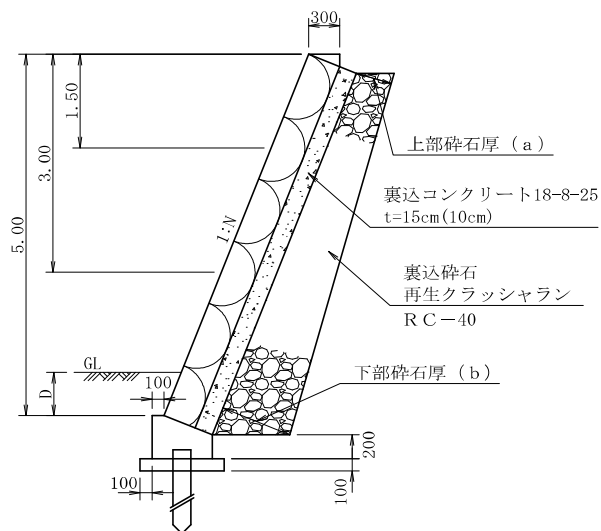
V形側溝柵工 材料表

名 称	材 料 表								10ヶ所当り	摘 要
	単粒度砕石 4号 (m³)	モルタル (m³)		V形柵上部ブロック (個) 450×600×100 120	グレーチング (枚) 本体 296×400×50 受枠 320×422×56	柵用ブロック (個)		透水性底ふた (枚) φ 190, t=50	ラベル (枚) 70×100	
		敷モルタル (1 : 3)	目地モルタル (1 : 2)			(2)穴あき 300×300×500 280×280	D 65×300×200 F 65×300×100			
V形側溝柵工(A－1)	0.254	0.036	0.005	10	10 (細目)	10	10 (D) 10 (F)	10	10	車道用(T－1 4)
V形側溝柵工(A－2)	0.254	0.036	0.005	10	10 (細目)	10	10 (D) 10 (F)	10	10	歩道用(T－2)

コンクリートブロック積工・石積工

文字修正
ブロック→ブロック

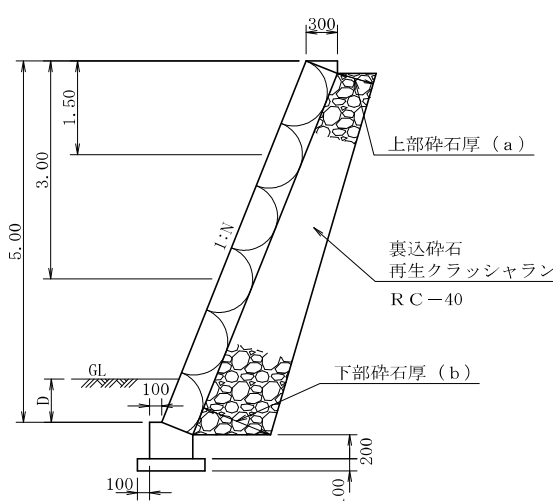
(A) 裏込コンクリートあり



・擁壁 (A) は、

1. 直高2.0m以上で、護岸肩部が兼用道路の場合に使用する。
2. 直高3.0m以上で、護岸の背面土質材料が砂質等吸い出され易いもの及び軟弱地盤の場合に使用する。

(B) 裏込コンクリートなし



・擁壁 (B) は、

1. 一般的な場合に使用する。
2. 基礎コンクリートの寸法は基礎杭のある場合は別途考慮する。
3. 根入れ長Dは通常1mであるが状況に応じて考慮する。

大分類	中分類	小分類	適用年度
800 擁壁工	コンクリートブロック積工 石積工	コンクリートブロック積工 石積工 (1/2)	R7.4

擁壁工寸法表

直 高 (m)		寸 法 表			単位 (mm)	摘 要
		前面こう配 N	裏込コンクリート厚 t	裏込砕石厚		
				(a)	(b)	
1.50	A	盛土 1:0.3	—	300	450	
	B	切土 1:0.3	—			
2.00	A	盛土 1:0.4	—	300	600	
	B	切土 1:0.4	—			
3.00	A	盛土 1:0.4	100	300	600	
	B	切土 1:0.4	—			
3.50	A	盛土 1:0.4	100	300	800	
	B	切土 1:0.4	100			
5.00	A	盛土 1:0.4	150	300	800	
	B	切土 1:0.4	150			

擁壁工材料表

名 称	材 料 表					10m ² 当り	摘 要	
	間知ブロック 控長35cm σ _{ca} =18N/mm ² 以上 (kg)	雑割石 控長35cm (個)	コンクリート(m ³)		裏込砕石 再生ｸﾗｯｼｬｰ(m ³)	水 抜 管 V P φ50 (m) R C - 4 0		吸出し防止材 cm cm mm 30×30×20 (m ²)
			胴 込 18-8-25	裏 込 18-8-25				
コンクリートブロック石積工	3500	—	1.9	(1.0)				
石 積 工	—	110	1.9	(1.0)				
〃	—	130	1.9	(1.0)				

注意事項

1. 裏込コンクリート厚は、直高により上下等厚とする。
2. 裏込砕石厚、裏込コンクリート厚は前面勾配に直角とする。
3. 比較的良好な地山の切土の裏込砕石については、裏込材の厚さを上下等厚としてもよい (0.30m~0.40m)。
4. 河積確保の必要があるとき、又は、接続構造物に合致せしめる必要のあるときは、本表勾配を適用しない。
5. 施工延長20m以内に1ヶ所、目地工 (瀝青質目地板 t=10mm) を施工する。
6. 水抜管の本数は計画河床以上について、1ヶ所以上/3m²とする。

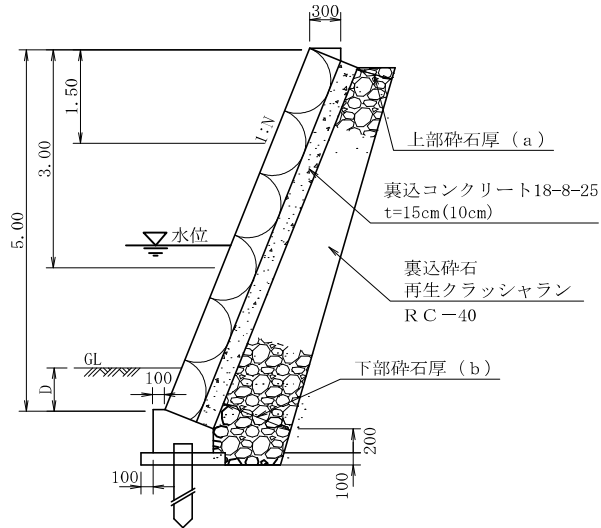
コンクリートブロック積工・石積工

文字修正
ブロック→ブロック

(A) 裏込コンクリートあり

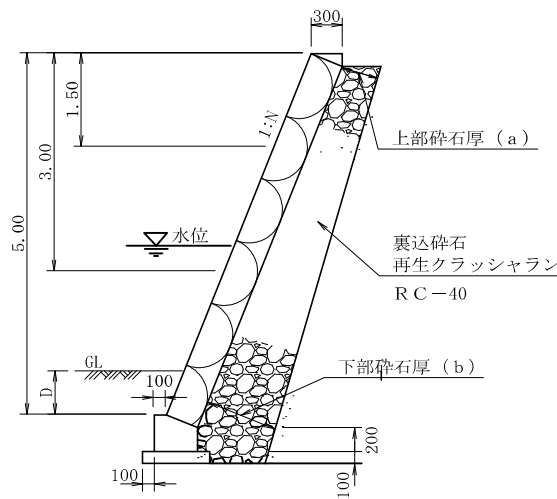
(B) 裏込コンクリートなし

(前面の水位を考慮する場合)



- ・擁壁 (A) は、
1. 直高2.0m以上で、護岸肩部が兼用道路の場合に使用する。
 2. 直高3.0m以上で、護岸の背面土質材料が砂質等吸い出され易いもの及び軟弱地盤の場合に使用する。

(前面の水位を考慮する場合)



- ・擁壁 (B) は、
1. 一般的な場合に使用する。
 2. 基礎コンクリートの寸法は基礎杭のある場合は別途考慮する。
 3. 根入れ長Dは通常1mであるが状況に応じて考慮する。

擁壁工寸法表

直 高 (m)		寸 法 表				摘 要
		前面こう配 N	裏込コンクリート厚 t	裏込砕石厚 単位 (mm)		
				(a)	(b)	
1. 50	A	盛土 1:0.3	—	300	450	
	B	切土 1:0.3	—			
2. 00	A	盛土 1:0.4	—	300	600	
	B	切土 1:0.4	—			
3. 00	A	盛土 1:0.4	100	300	600	
	B	切土 1:0.4	—			
3. 50	A	盛土 1:0.4	100	300	800	
	B	切土 1:0.4	100			
5. 00	A	盛土 1:0.4	150	300	800	
	B	切土 1:0.4	150			

注意事項

1. 裏込コンクリート厚は、直高により上下等厚とする。
2. 裏込砕石厚、裏込コンクリート厚は前面勾配に直角とする。
3. 比較的良好な地山の切土の裏込砕石については、裏込材の厚さを上下等厚としてもよい (0.30m～0.40m)。
4. 河積確保の必要があるとき、又は、接続構造物に合致せしめる必要のあるときは、本表勾配を適用しない。
5. 施工延長20m以内に1ヶ所、目地工 (瀝青質目地板 t=10mm) を施工する。
6. 水抜管は平水位以下には設けないものとし、1か所以上/3m²とする。
7. 擁壁の前面に水位がある場合は、裏込砕石を基礎地盤程度まで設置すること。

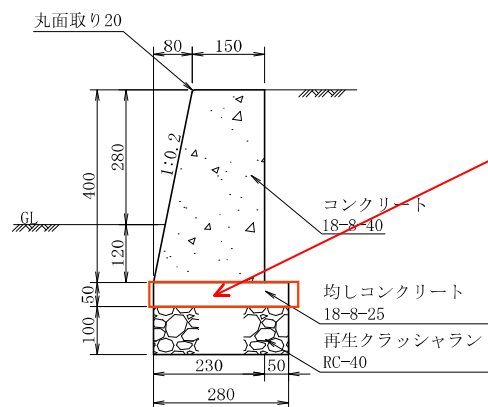
擁壁工材料表

名 称	材 料 表					10m ² 当り	摘 要
	間知ブロック 控長35cm σ _{cg} =18N/mm ² 以上 (kg)	雑割石 控長35cm (個)	コンクリート(m ³)		裏込砕石 再生/7		

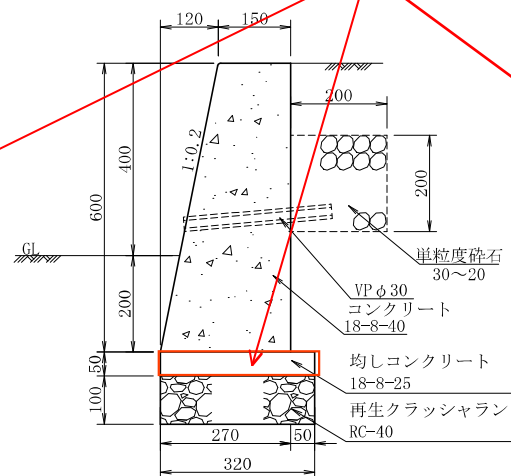
コンクリート擁壁工

大分類	中分類	小分類	適用年度
800 擁壁工	コンクリート擁壁工	H=0.4m、0.6m、 0.8m	R7.10

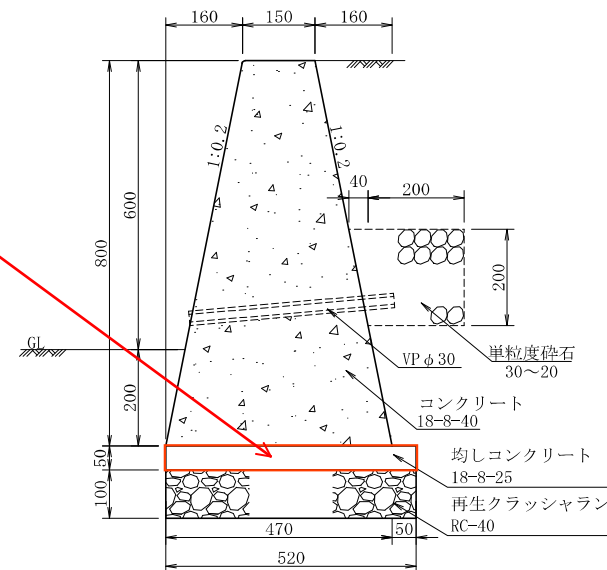
H=0.4m



H=0.6m



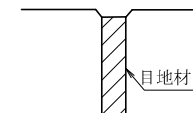
H=0.8m



コンクリート擁壁工材料表

名 称	材 料 表					10m当り			摘 要
	再生 クラッシュラン RC-40 (m ³)	コンクリート 18-8-40 (m ³)	均しコンクリート 18-8-25 (m ³)	単粒度碎石 30~20 (m ³)	V P φ 30 (m)	目 地 工 (m ²)	型 枠 (m ²)	均し型枠 (m ²)	
コンクリート壁 (H=0.4m)	0.280	0.760	0.140	—	—	0.076	8.079	1.000	
コンクリート壁 (H=0.6m)	0.320	1.260	0.160	0.400	0.50	0.126	12.119	1.000	
コンクリート壁 (H=0.8m)	0.520	2.480	0.260	0.440	0.80	0.248	16.317	1.000	

目地詳細図

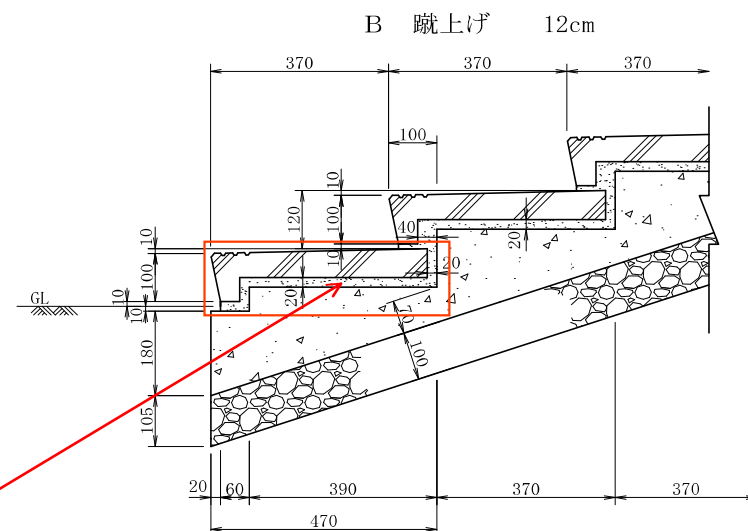
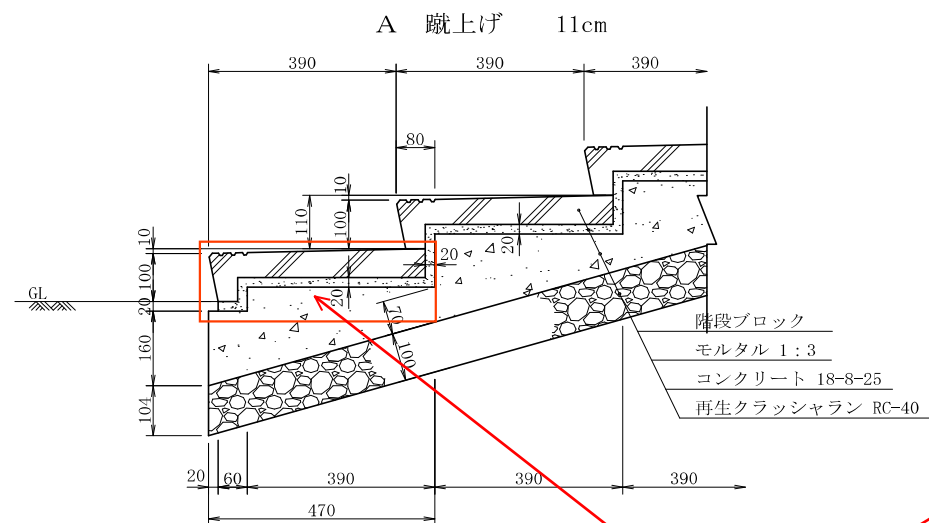


注意事項

1. 施工延長10m以内に1ヶ所、目地工（瀝青質目地材 t=10mm）を施工する。
2. 排水層は帯状とし、水抜パイプは@5mを標準とする。

大分類	中分類	小分類	適用年度
1400 雑工	階段工	A、B、C	R7.10

階段工



1段目の蹴り上げの構造をを2段目以降と同一に修正

階段工 (A)、(B)、(C) 材料表

名 称	材 料 表					摘 要
	再生クラッシュラン RC-40 (m³)	コンクリート 18-8-25 (m³)	モルタル 1:3 (m³)	階段ブロック 450×500× 100 60 (個)	型 枠 (m²)	
階 段 (A)	0.406	0.499	0.100	19.7	1.83	
階 段 (B)	0.389	0.496	0.114	19.7	1.94	
階 段 (C)	0.375	0.490	0.132	19.7	2.05	

注意事項

1. 階段ブロックの配筋は、φ6をタテ・ヨコ各4本とする。
2. 目地幅は、7mmとする。

